

■科目ごとの授業方法・内容：幼稚園教諭一種免許状

授業科目の名称	講義等の内容	授業方法
【領域及び教職に関する科目】		
幼児と健康論	幼稚園教育要領の「健康」の領域に関する幼児の心身の発達や運動発達など、心と体の健康について理解する。子どもの健康について「心」「身体」「食育」「生活リズム」「安全」「運動」について課題を整理しつつ健康の現代的課題を理解する。	演習
幼児と人間関係論	幼稚園教育要領および保育所保育指針の「ねらい」と「内容」について、小学校就学前までの発達段階を理解した上で、人間関係の形成の仕方や問題点、指導上の留意点や評価の仕方等、小学校の「道徳教育」の授業とのつながり等と関連させて理解する。また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（健康な心と体、自立心、協同性、道徳性と規範意識の芽生え、社会生活との関わり、思考力の芽生え、自然との関わりと生命尊重、数量や図形・標識や文字などへの関心と感覚、言葉による伝え合い、豊かな感性と表現）」の明確化と見通しをもった保育力の学習、幼児一人ひとりの長所や可能性を理解した評価についての学習も目標とする。	演習
幼児と環境論	幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領に基づく「環境」の領域を園生活における子どもの成長の姿を通して「環境を通して行う教育」の重要性を理解する。幼稚園教育要領「環境」のねらいと内容を総合的に捉え理解し、保育の知識を広げる。	演習
幼児と言葉論	子どもが言葉を豊かにし、伝え合う喜びを感じる心を育むために、保育者として身につけるべき子どもの言葉の発達過程について理解する。また、教育要領や保育指針における領域「言葉」のねらいや内容を理解し、子どもの言葉に関わる環境や保育者の関わりを考えた上で、言語発達に関係する児童文化財を用いた保育実践を行う。	演習
幼児と表現論	幼稚園教育要領での領域「表現」におけるねらいと内容を理解する。またねらいと内容を踏まえて幼児が遊びを通して身に付けていくべき内容と、その指導法、及び留意点を理解する。言葉での伝え合いや、友達との学び合いなど、他領域との関連についても学び、幼児期の終わりまでに育って欲しい具体的な子どもの姿を描きながら、幼小連携においても理解し、保育を構成できるようになる。また指導計画の観点から、フィードバックするために必要な、評価について理解する。幼児の表現したい気持ちを理解し、そのための保育や援助について理解する。	演習
保育内容総論	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼小連携型認定こども園教育・保育要領に示された幼児教育・保育の基本を踏まえ、幼児教育・保育は園生活全体を通して総合的に指導するという考え方を具体的に理解する。保育内容の全体的な構造を理解し、遊びを通した指導方法を身につける。	演習
保育内容指導法（健康）	幼稚園教育要領に示された領域「健康」のねらい及び内容について学習する。模擬保育の計画を通して子どもが経験し身に付けていく内容を理解し、その実施によって評価の方法や遊びや学びの過程を学習する。また、省察と改善方法を考えることにより保育実践を改善していく視点を学習する。	演習
保育内容指導法（人間関係）	乳幼児期の「人とのかかわる力」の発達について理解を深め、具体的で実践に即した指導場面を構想する方法を説明し、情報機器及び教材の活用法の解説や具体的な保育を想定した指導案の作成など演習形式で行う。特に、乳児期、幼児期前半、幼児期後半に分けて、愛着と信頼関係の発達や自我の発達、他者意識の形成や自律の芽生え、そして道徳性と規範意識の芽生えなどの発達の学習を基礎にして、友達と協力する力、伝え合いと他者の思いに気づく力、友達への憧れ意識と認め合う心などを育む方法を学習する。自発的な活動である遊びを中心とした総合的な指導を中心に、自発性・社会性・情緒面の安定・思考力や表現力の育ちについても触れていく。	演習
保育内容指導法（環境）	環境を通して育まれる乳幼児の成長・発達を、具体的な子どもの事例から理解する。「環境」の領域を総合的（社会環境・事象の変化・自然・文化・生命の育み等）に捉え、保育現場に即して、環境遊びや視聴覚教材、具体事例を通した指導内容を展開する。	演習
保育内容指導法（言葉）	子どもの言葉の発達を促すための環境づくりと保育者の援助について理解を深める。また、保育内容（人間関係）や（表現）等、他領域との関連も踏まえて領域（言葉）への理解を深めた上で、視聴覚教材や具体的な事例を通して子どもの言葉を育むための保育者の援助について理解し、保育計画・実践を行う。さらに、外国にルーツを持つ子ども等、言葉に関して特別な配慮を必要とする子どもに対する援助についても考えていく。	演習

授業科目の名称	講義等の内容	授業方法
保育内容指導法（表現）	幼児の表現を支える身体の発達や、言葉の発達、人間関係の築きも理解し、具体的場面を基に、幼児の心情理解や、思考、動きなどの特徴を抑える。感性が豊かに育まれるような環境を学び、思いや意図をもって表現することができる保育を構成する力を身に付ける。幼児の表現を助ける様々な教材研究を行い、活用法を学び、実践的に構成することをできるようにする。年齢や発達に応じ、幼児の表現したい心情を汲み取りつつ保育構成をする。それを模擬保育として具現化し、その振り返りなどにより、保育を客観的に考察し、改善する方法を身に付ける。	演習
幼児音楽指導法Ⅰ	保育の中で使うあそび歌や、わらべうた、音楽に合わせた身体運動などについて学び、音楽遊びのレパートリーを増やす。幼児の音楽遊びは他領域との関連も重要であることから、遊びを丁寧に考察し、それまでに修得した専門的知識も活用しながら実践力を身につける。幼児では合唱などは難しいものの、わらべうたによるカノンなど、幼児でも可能な和声の響きを体験できる技術も身につける。具体的な保育実践を想定し、保育指導案を作成し、ロールプレイングをして、実践力を身に付ける。	演習
幼児音楽指導法Ⅱ	身の回りの音が鳴るものとかかわりを持つために、どのような環境整備をする必要があるのかを学ぶ。また身の回りの音から、簡易な楽器を使って遊ぶ幼児の音楽活動の指導法を身につける。楽器の基本的知識も身につけ、幼児の社会性や言葉の発達、身体運動能力についても理解したうえで、幼児が楽しめる合奏の指導法を学ぶ。そのために必要な作曲技法も身に付ける。	演習
幼児造形指導法Ⅰ	造形表現活動がもたらす子ども（0歳から3歳児頃まで）の心身の発達について理解する。また自分自身の感性や創造力を高め、教材や題材に関する知識の学習や技術を習得し、子どもの発達を踏まえて造形活動を計画することの必要性など、幼稚園や保育園で実際に行われている様々な活動を体験し考察する。このことを通して、保育現場での造形表現指導に対応できる能力と知識を身につける。	演習
幼児造形指導法Ⅱ	幼児造形指導法Ⅰで学んだ内容や実習で学んだ事柄をふまえて3歳児から5歳児頃の造形を学び、より実践的な制作活動に取り組む。実際に幼児が描いた作品を鑑賞し、発達段階を考慮した制作を行うことで、幼児の発達段階にふさわしい造形の題材及び指導法の理解を深めていく。また、保育現場で使用されている様々な造形用具の使用方法について再確認し、安全教育や幼児への援助の方法について考える。題材の学習や技術の習得、造形活動における発達の理解など、幼稚園や保育園での造形表現指導に対応できる能力と工夫する力を身につける。	演習
教育原理	教育の意義や目的について理解し、現代の学校教育の問題を認識し、望ましい教育の在り方が考察できる。教育に対する正しい見識を持つとともに、将来の教育者、保育者としての自覚と責任意識を身に付ける。教育思想史からみる教育の意義と目的、人間の発達と教育、現代の家庭教育や学校教育の諸課題、学校・教育諸制度を中心に講義する。学生には、自分の育ち、受けてきた教育を振り返り、今日的な教育諸問題に関心と意識化を図り、講義の深まりをねらう。	講義
教職論	教職の意義と教員の役割、教員の職務内容（研修、服務、身分保障等を含む）、職場の人間関係、保護者や地域社会との関係など、子どもをめぐる環境の変化と教師のしごとの変化に関する諸問題の検討を通じ、現代日本の教師の在り方を考える。	講義
保育者論	保育者とはどのような役割を担っており、その職務はどのような内容かを理解し、保育者として持つべき倫理観について考える。また、これまでの歴史的変遷や現代における多様な家庭環境をもとに、社会における保育者の制度的な位置づけについて理解する。さらに、他の教職員や保護者、地域と連携をとり、計画⇒実践⇒省察を行いながら常に保育の質の向上を図り、キャリア形成を行う姿勢を持つ等、保育者としての専門性について深く考察を行う。また、保育と保育者支援に関わる協働についても学ぶ。	
教育制度論	日本および諸外国の教育制度について、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。教育制度は、教育に関する法規に基づき設計され、その背景にある思想が制度を歴史的・社会的に成立させてきた。日本における教育制度の変遷を学習するとともに、諸外国との比較を交えて、それらを構成する制度のしくみの展開や課題を検討する。さらに学校での教育活動を支える教育行政の組織やその働き、学校経営のしくみについて理解を深めていく。	講義

授業科目の名称	講義等の内容	授業方法
教育心理学	幼児・児童及び生徒に関する心身発達と学習過程について、基礎的知識を獲得し、実場面の教育指導に関する基礎的考え方を習得すること。さらに、当該教育領域に新しい知見が現れてもすぐに対応出来る人材育成をする。特に、考える習慣を身につけることを念頭に、パワーポイント教材を活用しながら、実際場面における課題を視覚的かつ模擬的に提示し、これらの課題解決への取り組みをレポート応答させる形式を随所に織り込む。加えて、クイズ形式の小問題も適宜出題する。確たるエビデンスに基づいた教育展開へ期待し、簡単な心理学実験演習課題も織り込んだ授業展開を行う。	講義
児童心理学	生涯発達における児童期の発達の意義を明らかにし、発達の諸側面の特徴と児童期発達の概要、現在問題となっている不登校、いじめ、虐待について要因と介入のあり方、児童期と青年期の過渡期にあたる思春期の発達の特質について説明する。これらを通じて、教育実践への応用を考察する。	講義
特別支援教育学	障害の思想と理念、特別支援教育の理念を基礎基本に据え、障害のある幼児児童生徒に対する教育・指導・支援の在り方を修得し、演習を通して適切かつ有効な実践的支援力を養う。また、肢体不自由、視覚・聴覚障害、知的障害、発達障害、自閉症スペクトラム障害、学習障害、注意欠陥多動性障害に関する基礎的な知識を身につけ、子どもの理解に基づく支援計画・記録及び評価はどのように行われているのかについて、事例を通して学んでいく。さらに、障害はないが特別のニーズのある幼児、児童を含めた、特別の支援を必要とする幼児、児童を主体とする保育・教育の在り方、進め方について、知識を深めながら演習に取り組み、適切かつ有効な実践的支援力を養う。	演習
初等教育課程論	学校教育における教育課程について理解し、教育実践を行う上で必要な知識を学ぶ。また、意義と内容、教育課程編成を行う方法等に関する事項について、学習指導要領や幼稚園教育要領から基礎的・理論的な理解を図っていく。さらに歴史的変遷から現代的な課題への取り組みに至るまで多角的な視点から学ぶ。講義を中心として基本的な理解を図り、発問および討議を織り交ぜて考察を深めていく。	講義
保育・教育課程論	教育課程・全体的な計画の意義と編成の原理・方法について検討する。教育課程・全体的な計画の編成の歴史や事例の分析を通して、これらを決定する基本的要因、構成する要素、編成する基本原則について検討し、分析と批評、作成と開発のための力量を育む。その際、生涯教育の視点から幼児の発達をとらえたり、多様な子どものニーズや社会で求められている資質や能力を検討し、幼児への理解と支援の在り方を工夫したりすることを中核に据えた「カリキュラム・マネジメント」ができるようにする。	講義
初等教育方法学	授業設計にかかわる基本的な考え方、授業場面での指導技術、ICT（情報通信技術）の効果的な活用や情報社会の中で学び続ける力の育成方法を学ぶ。受講生は「授業設計」にグループで取り組む。授業設計には、学習目標、教材分析、学習過程、評価方法、ICTの活用法が含まれる。授業設計にあわせて受講生間の意見交換、マクロティーチング等を行うなど実践的に学習する。	講義
幼児の理解	幼児理解の意義・原理、幼児理解の方法を具体的に理解するために、幼児期の心身の形態や機能の成長・変化の過程、内外未分化な時期から自己が獲得されるまでの心の育ち、さらには思考、情動、適応能力、意欲の発達や対人関係の発達などについて学習する。 保護者の思いや考え方を理解し、対応の在り方を考察する。	演習
初等教育相談	子どもの発達を支援するために、教育相談の意義や理論、幼児期、児童期、思春期の発達の特徴、カウンセリングに基づく教育相談のあり方について説明し、幼児・児童の心理的問題を解決するために、教育相談に活用できるカウンセリング技法、不登校・不登園、いじめ、非行、虐待被害等の課題に対する教育相談のあり方、教育相談の適用範囲と他機関などとの連携についても説明する。	講義
教育実習（幼・小）	実際の小学校・幼稚園での観察・参加・指導実習を通して、小学校・幼稚園の機能・役割、一日の流れや教諭の様々な役割を把握する。担任の補助を行い、児童が主体的・対話的・深い学びに向かうことのできる学習環境の在り様を学び、自らも教育・保育を実践する。観察・参加実習において実習生自ら児童・幼児と関わり、児童・幼児の実態を把握し、個々に応じた適切な支援・援助を実践し、省察する。教壇授業や研究授業・責任実習の経験を通して児童・幼児の主体的・対話的で深い学びを目指した指導案を作成・実践し、環境構成や指導・保育実践について学びを深める。指導教諭の学級経営において観察・参加・指導を行う中で、生徒指導や学級経営の重要性を学び、実践のための基礎を修得する。	実習

授業科目の名称	講義等の内容	授業方法
教育実習事前事後指導	事前指導においては、小学校教育実習、もしくは幼稚園教育実習の意義・目的をおさえ、必要性を理解する。既習の内容を踏まえて、小学校・幼稚園教育において実践力を養い、教育を深める。学習指導だけでなく、児童の生活指導や、掃除、給食など含めた学校生活全体での教師の役割を認識し、実践力を高めるよう学習する。事後においては、経験した実践を振り返り、学びを考察する。	実習
幼稚園教育実習	実際の幼稚園での観察・参加・指導実習を通して、幼稚園の一日の流れや幼稚園教諭の様々な役割を把握すると共に、幼児が主体的に遊びに向かう環境の在り様について学び、自らも教育・保育を実践する。観察・参加実習において実習生自ら幼児と関わり、幼児の実情を把握し、発達を踏まえた声かけや支援・援助を行い、実践力を高める。責任実習の経験を通して児童・幼児の主体的・対話的で深い学びを目指した指導案を作成・実践し、環境構成や指導・保育実践について学びを深める。	実習
教職インターンシップ	幼稚園、小学校教育における授業、特別活動、部活動などの教員の日常業務を長期的に観察、体験し、学校における教育活動についての、実践的、具体的に理解する。学校教育の様々な場面における、教師の業務について知り、学校の教育活動について具体的に理解する。また、教員と幼児・児童との関係について具体的に理解する。	実習
教職実践演習（幼・小）	これまでの学修や活動、実習体験を通じて身に付けた資質能力を振り返り、現段階で自分にとっての自己課題を確認する。また、グループワークにて、それぞれの実習体験をもとに各園や学校のさまざまな特色や教育・保育方針について共有し、事例研究や模擬授業を行う中で他者と意見交換をしていくことで、新たな視点を身につけ、不足している知識や技能を補う。教育者・保育者としてあるべき姿を各自が持ち、自らも学び続ける態度を養う。	実習
初等国語論	小学校国語科の歴史の変遷を踏まえ、その意義を理解し、現代社会で求められている資質・能力を育むために必要な指導内容や言語活動について考える。また、近年では教育者自身もSNSの利用等から書く機会や他者と直接コミュニケーションをする機会が減っているため、教師として適切な日本語を使う手本となるよう、改めて日本語への理解を深め、語彙力をつけるとともに、自己の考えが十分に伝えられるコミュニケーション能力、及び文章表現力を養っていく。さらにその中で教育者自身も言葉による見方・考え方を体得していく。	講義
初等音楽論Ⅰ	幼児・児童の音楽活動を支えるための音楽技能について理解し、修得する。幼児・児童の音楽表現を理解し、援助できるように学ぶ。幼児・児童が音や音楽に触れ親しむために、基本的な読譜方法や、音楽理論を学習し、主にピアノを使った表現活動ができるように、各個人の技術レベルに応じた個別指導を行って技術の向上を図る。	演習
初等音楽論Ⅱ	幼児・児童の音楽活動を支えるための音楽技能について深め、教授方法をより発展させて学ぶ。幼児・児童の音楽表現を理解し、幼児・児童の表現したい気持ちを受け止め、援助できるように学ぶ。特に幼児の発達や、年齢による特徴を踏まえて、指導援助ができるよう演奏技能を学ぶ。幼児・児童が音や音楽に触れ親しむために、教育者が必要な援助について考える。主に歌唱での表現活動を高め、各個人の技術レベルに応じたピアノの個別指導を行って技術の向上を図る。	演習
初等音楽論Ⅲ	自然の発声法を学び、教育者としての歌唱力をより深める。幼児・児童の発声・歌唱力の発達について理解し、それに応じた指導援助ができる歌唱指導法を修得する。幼児・児童の季節の歌や唱歌の重要性、幼児・児童にとって歌うことの意味を理解し、その指導法を学ぶ。初等音楽論Ⅰ、Ⅱで学んだピアノも活かしながら、より歌唱を豊かに導くよう、技術の向上を図る。合唱やカノンなども経験し、人と合わせて歌うことの重要性や、表現したい心のあり様を体感し、指導における幼児・児童理解へと繋げる。	演習
初等図工論Ⅰ	子どもの発達に合った造形遊びや教材、環境づくりへの理解を深めるとともに、学生自身の造形表現への興味や技術、能力を高める。具体的には、子どもの表現活動において重要な要素である描画活動やパスや絵の具などの描画材、立体制作の指導に必要な廃材などの素材を用いた基礎的な実技を実体験しながら習得し、保育・指導の際の具体的な指導法や発達段階による援助の違いについて考える。また、子どもの制作活動や遊びの実態について具体的な事例を用いて学ぶ。	演習
初等図工論Ⅱ	いろいろな素材や自然に触れ、遊びに取り入れたり自分なりに発見したり組み合わせたりする等して表現することは、子どもの表現力や想像力を養う上で重要な経験である。そこで、グループや個人で身の回りの様々な紙工作や廃材を用いて立体製作をし、自然物を使った造形にも取り組んでいくことによって、保育者として子どもの可能性を広げる技能を習得する。また絵の具を使った様々な技法を習得し、それらを生かして平面作品を完成させる。	演習

授業科目の名称	講義等の内容	授業方法
初等体育論Ⅰ	子どもの運動発達と教育について理解する。乳幼児期から児童期にかけての運動遊びが「身体教育」から「スポーツ教育」への発展過程であることを紹介する。各年齢にあった集団遊びの具体的な指導法、環境構成について学ぶ。運動遊びの必要性を理解し、安全に関する留意点、用具別の遊びの方法を演習形式で実践するなかで身につける。	演習
初等体育論Ⅱ	幼児期および児童期における運動発達に応じた運動遊びを実技により理解する。子どもたちの発達を促すため、子ども達の身体的、精神的、知的および社会性の発達を理解するとともに、年齢に適した運動遊びの内容・保育の方法を身につける。また、年齢に適した運動遊びを計画、指導する力を養うとともに、指導時の健康、安全についても学ぶ。	演習
教育学概論Ⅰ	教育の役割と期待への考察。今日における教育への期待とその役割を考え、生涯学習社会における学校教育について考察する。人間形成における教育の機能を理解する。本講義では、人間の教育の必要性、教育の意義・目的、人間の発達・成長と教育、学校教育、家庭教育、子ども理解、特別支援教育などについて学ぶ。	講義
教育学概論Ⅱ	教育という営みの多様性について認識するとともに幅広い視野で教育について考えるために、教育学・教育史、ジェンダー・特別支援教育、スポーツ科学・身体論という三つの視点から授業を行う。	講義
サービスラーニング	大学で学んでいる知識・技術を活かし、地域社会のニーズ等を踏まえた社会奉仕活動を体験する。このことによって、専門的知識の意義や意味を深く理解し、あわせて自らが社会を構成する一員であるという意識を高めることを目的としている。地域の課題に目を向け、自分たちで活動団体や課題をみつけ、活動に参加あるいは自ら活動をおこなう。授業は、まず、サービスラーニングあるいはボランティア活動についての講義と仲間づくりをおこない、グループを結成し、その後、それぞれのグループが見つけたボランティア活動をおこなう。最後に、ポスター発表という形式でまとめ、まとめの授業でいくつかを紹介し、体験や知識の共有をおこなう。学生は約16名のグループにわかれ、各グループに教員が1名つき、相談・助言のもとに実施。	演習
セーフティプロモーション	セーフティプロモーションとは、injuryおよびそれによる安全・安心への脅威を保健医療上の課題としてとらえ、公衆衛生的アプローチによって予防しようとする取り組みを示す。ヘルスプロモーションが疾病を念頭においた健康づくりであるのに対し、セーフティプロモーションは外傷を念頭においた生活の場における安全・安心づくりであり、個人・集団（学校を含む）・地域・国家レベルでの取り組みへの理解が必要である。セーフティプロモーションの概念、我が国における各領域におけるセーフティプロモーション、セーフコミュニティ、セーフティプロモーションスクールについて公衆衛生的視点から予防について理解することを目指す。	講義
【教育職員免許法施行規則第66の6に定める科目】		
社会と人権（日本国憲法）	憲法の内容は、「人権」（国民の権利と義務）に関する記述と、「統治」（国家のしくみ）に関する記述に分けることができる。本講義では「人権」に関する規定の解説をおこなう。憲法の人権規定にかかわった具体的な裁判の解説をとおして、憲法が私たちの日々の生活にいかに関与している存在であるのかということの理解を深める。またその時々憲法をめぐるニュースを紹介する。	講義
体育講義	子どもの運動発達の特徴やその重要性および発達に応じた運動指導、進んで運動する子どもを育てるための指導者の関わりについて説明する。また、運動における教育的意味を学び、運動指導の理論や知識を深める。	講義
体育実技	身体活動を通じて、健康保持増進及び運動技術の向上を図る。運動、スポーツ、健康に関する知識や方法を身につけ、健康な生活を送るために必要な基礎知識を習得し、生涯スポーツの一助とする。集団行動を基に、球技では集団の中の個人としての役割を果たすことにより、社会性や協調性を身につけることを目的とする。また、器械運動・水泳・陸上競技等においては、個人としての能力向上を目指し、課題を克服するための資質や能力を身につけることを目的とする。様々な運動経験を通して教育者・保育者としての資質や能力の向上を目指す。	実技
Speaking & Listening	学習者は、基本的な英語の表現・パターンを応用して、自分が伝えたいことを英語で表現できるようになる。英語の発音やイントネーションについての基本的な知識を持ち、それらを英会話の中で活かすことができる。主に、実践的なコミュニケーション力を伸ばすために、体系的な学習内容に関して繰り返し実用的練習（学生同士における練習〔ペアワーク・グループワーク〕）及び担当者により評価の対象となる個別スピーキング・リスニング練習）を行いながら、必要な知識と言語能力を段階的に習得していく。	演習

授業科目の名称	講義等の内容	授業方法
Writing	学習者は、辞書等を参照しつつも、自分が相手に伝えたいことを英語で表現できるようになる。学習者は、基本的な英語の表現・パターンに習熟し、パラグラフの構造を理解し、英語表現に役立てることができる。学習者は、伝える相手や状況に応じて、適切な表現を用いて英語でコミュニケーションができる。文法ではなく、場面やことばの働きを中心にシラバスは組まれる。想定される活動：基本的な英語の表現・文のパターンを参照して、自分にあった表現をする。8つのグループに分れて学ぶ。割り振られたグループで受講のこと。	演習
Reading I	様々なタイプの英語テキストから、大切な情報を読み取る力を身につける。英語の基本的な語彙と文型を理解し、基本的な英語テキストから、必要な情報を収集し整理することができる。英語テキストには様々な種類があることを理解し、その種類にあった読み方ができる。英語テキストでの情報提示の形式を理解できる。8つのグループに分れて学ぶ。割り振られたグループで受講のこと。	演習
Reading II	学習者は、学術的にやや専門的な内容を含む英文を読んで理解できるようになる。内容重視のアプローチで、大学生の知的好奇心を満たすようなアカデミックな内容を英語で読む活動が中心となる。英語テキストの理解を深めるために、英語以外の資料・図なども積極的に活用される。授業の難易度は使用されるテキストにより決まるので、受講者はそれを見て自分に合うか判断する。	演習
Process Writing	学習者は、テーマを決めて、推敲を繰り返し、比較的長めのまとまった文章がかけられるようになる。学習者は、自分の英語表現を繰り返し英語教員にチェックされフィードバックを受けることにより、次第に自分中心の文章から読み手を意識した文章を産出できるようになる。学習者が表現したいことは個人個人で異なるため、個別指導が行われる。学習者は、すでに基本的な英語の表現・パターンに習熟していることが期待される。想定される活動：学習者はテーマを決め、自分が伝えたいことが、どのようにすれば英語で効果的に表現できるかを、個々に教員と相談しながら、学んでいく。	演習
時事英語	学習者は、ラジオ・新聞やインターネットなどでの報道でよく使われる英語表現の特徴を理解し、時事英語を聴いたり読んだりして理解できる。諸外国の英語報道だけでなく日本が英語で海外に発信されている報道も教材に含める。教育・看護系の学生が興味をもちそうな内容を開講時期の報道から適期選択する。想定される活動：時事英語でよく使われる英語表現のリストの作成、インターネット上の英文記事の読解・音声による報道の聴解。英語学習に役立つインターネット上のリソースについてその使い方を学ぶ。	演習
異文化交流（海外語学研修）	学内での事前指導（2時間×3回＝6時間）を通して、国際関係や海外事情並びに生活での留意点等を学習した後、夏期休暇中（8月）に姉妹校であるカナダ・バンクーバーアイランド大学の英語セミナーに参加し、語学教育を受けるとともに異文化交流を図る。現地の保育・保健施設、文化施設の訪問や現地の人々との交流を通して、教師、保育士、看護師としての豊かな国際感覚を身に付ける。研修中はホストファミリー宅に滞在してバンクーバーアイランド大学に通う。研修後は異文化体験における学修成果をまとめ、報告会で発表する。	演習
情報リテラシー I	急速に進みつつある情報化の流れの中で、私たちは目的に応じて主体的に情報を選択・収集し、分析・編集した上で発信する等、さまざまな情報を適切に活用していく能力が求められる。私たちがこの情報化社会に対応できる能力を身につけるためには、情報機器（パーソナルコンピュータ、タブレット端末等）の基本的操作の習得も必要不可欠となる。本授業では、パーソナルコンピュータをはじめとする情報機器の基礎知識と基本的操作の習得に加え、Microsoft OfficeアプリケーションソフトのWord/Excel/PowerPointの操作方法についても学ぶ。そして、これらのアプリケーションソフトを用いて図表の作成を含むレポートや課題作成、論文作成やプレゼンテーションなどの演習を通して主体的かつ積極的に情報を活用していく能力の育成を目指す。	演習
ICT活用演習	教育や保育の現場で情報機器を活用する場面を想定して実践的な課題に取り組み、ICTの活用方法を深化させる。小集団で企画構想を練り役割分担して、課題の作成から発表、および相互評価までの学習活動を行う。ネットワーク上のリソースやコミュニケーションツールを活用し、学習者が協同して主体的に学習を進めるよう授業を展開していく。	演習